

ICM セットアップ中に CrashDumpEnabled の値がゼロに設定される

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

概要

メディアまたは \icm\bin\ ディレクトリから Cisco Intelligent Contact Management (ICM) のセットアップを実行すると、SYSTEM\CurrentControlSet\Control\CrashControl\CrashDumpEnabled レジストリ値が 0 に設定されます。このドキュメントでは、この問題のトラブルシューティング方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco ICM のインストールとアップグレードに関する知識。詳細については、[インストールガイド](#)または[アップグレードガイド](#)を参照してください。
- regedit を使用してレジストリ値を編集する方法に関する知識

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

Cisco ICM/Cisco Unified Contact Center (IPCC) セットアップ プロシージャが SYSTEM\CurrentControlSet\Control\CrashControl\CrashDumpEnabled レジストリ値を 0 に設定します。

解決策

問題を解決するには、次の解決策を使用してください。

ICM ノードが実稼働モードになるとき、Cisco ICM セットアップ プロセスによって CrashDumpEnabled レジストリ値が常に自動的に FALSE (値 0) に設定されます。このように設定される理由は、非常に大きな memory.dmp ファイルが作成されてハードドライブが占有されるのを防ぐためです。

ハードドライブ スペースが十分にあり、そのうち 2 GB を失っても問題ないと考えられる場合、またはサーバ上のメモリ量が何 GB であるかにかかわらず、CrashDumpEnabled を手動で再び有効化できます。有効化するには、値を 1 に設定します。ただし、そのノードで ICM セットアップが実行され、実稼働モードに再び切り替わると、必ず値が再び 0 に設定されます。

関連情報

- [音声およびユニファイド コミュニケーションに関するサポート リソース](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)